



韓国の原爆平和展示館

先週、韓国に出かけた折に、原爆平和展示館に足を運んでみた。ソウル市中心部から北に車で約1時間の上渓洞といわれる地区にある▼「1945年8月、広島に住んでいた韓国人約7万人、その中で原爆で死んだ人、約3万5千人」と推定されている。日本の敗戦にともない大韓民国が独立。これにより約3万人が韓国に戻ったとされ、その中にたくさんの方々が原爆重患者が混じっていた。帰国した人たちは日本で差別を受けてきたが、故国に帰っても「親日派」と見なされ、温かくは迎え入れられなかったという。このため「日本のように原爆病院が出来るのか、被爆者に対する保護法案が可決される事もなかった」▼こうした韓国社会の中で「無視、冷視されて生き続けてきた」被爆者の霊を慰めるため原爆平和展示館を設立するとともに、反戦平和を訴え続けているのが日本人僧侶の高橋公純さんだ。高橋さんは宮城県出身の1941年生まれ。73年にはじめて韓国を訪れ、88年に日本の家をたたくまで韓国に。2015年8月に展示館を開設して、19年5月に社団法人に。

この間、被爆者の慰霊活動と併行して、養老院の開設・運営、少年院へのボランティア、年末助け合い運動等、幅広い活動を積み重ねてこられた。さらには1947年台湾での中国国民党政権による2・28事件とよばれる弾圧・大量虐殺による犠牲者慰霊のため、台湾にも頻繁に足を運ぶ▼高橋さんはこれまで「日本人なら俺の前で土下座しろ」と強要されて土下座したことも一度や二度ではなかったようだ。日韓関係が最悪の状態にある今、批判の応酬ではなく、相手のために何が出来るか、このための具体的行動・実践こそが求められているのではないか。高橋さんの活動はそう語っているように受け止めた。(土着菌)